

パーマ頭の異色レスラー



アジア選手権の男子グレコローマン55kg級準決勝でカザフスタン選手(左)と対戦する片桐大夢=4月27日、西安(共同)

グレコ55kg級の片桐(飛龍高出)

力強き武器に躍動

髪にパーマをかけ、ひととき目立つ異色のレスラーがいる。4月28日に終了したアジア選手権(西安|中国)の男子グレコローマンスタイル10階級で、日本勢でただ一人決勝に進んだのが55kg級の片桐大夢(拓大)。初のシニアの国際大会で2位に入り「最後まで勝つつもりだった」と言い放った。

158センチと小柄な体から繰り出す力強い攻撃を武器に躍動。普段よりも早めに減量を始めたことも奏功し、他の日本選手が苦戦する中でアジアの舞台を勝ち上がった。

浜松市出身。活発でやんちゃだった少年が、たまたま足を運んだレスリング教室で競技の魅力にはまった。得意の投げ技は中学まで並行して取り組んだ柔道がルーツになっている。

実家は両親が営む美容室で、今でも髪を切るために帰省する。出上がりはお任せで「ちようどいい感じにかみ合っている」と満足する髪形はトレードマークにもなっている。飛龍高から拓大への進学は、多方面で活躍する大好きな須藤元

気監督の存在が決め手だった。来年の東京五輪実施階級挑戦を表明する選手が多い中、20歳のホープは違う。非五輪階級の最軽量級にこだわ

り「いくら(体重を)増やしても(体格差が)きつい。(2024年)パリ五輪で入ったら目指していこうかな」と独自の考えで鍛錬を続ける。